

## 成果の説明書

(氏名) 笠見 弥生	(学部) 経済学部
1 重要事項	
【研究】 昨年度に引き続き明末の文人凌濛初による短篇白話小説集『拍案驚奇』及び『二刻拍案驚奇』を対象とし、科研費「短篇白話小説『拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』の編纂過程についての研究」(JSPS20K12948)の助成を受けて研究を進めた。主な進捗は以下の通りである。 (1) 凌濛初及び「二拍」に関する自身の既刊論文を見直し加筆修正を行った。 (2) 凌濛初及び「二拍」に関する先行研究や関連資料の調査を国立国会図書館、東京大学東洋文化研究所図書室等コロナ禍でも利用できる図書館を中心に進めた。 (3) 既刊論文「許容された不義密通——凌濛初「二拍」を中心に」(『日本中国学会報』69、単著、2017)を中国語に翻訳した「被寛恕的私通—以凌濛初“二拍”为中心」が羅劍波主編『雨花集』(江西教育出版社、2021)に掲載された。	
【教育】 「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」「中国語文献講読Ⅰ」「中国語文献講読Ⅱ」「日本語リテラシーⅠ」「中国古典研究」「中国文化論」を担当した。特に以下の点に留意して行った。 (1) 不測の事態に備え、常に突然オンラインになった場合を想定して授業の準備を行った。 (2) 中国語科目については、対面授業を行うことができたが、マスク着用により口の形を確認しながら発音練習をすることなどが困難になった。中国語は発音の正確さが特に重要であるため、わかりやすい説明を心がけた。 (3) 中国古典研究、中国文化論については、学生になじみの薄い中国の古典を扱うため、昨年度までの学生からの感想等を踏まえて紹介する資料を選択する等親しみやすさを追求した。 (4) 中国文化論については当初オンデマンドとの併用が求められ、途中から対面授業に変更があった。不測の事態に備え、Teamsを活用した授業づくりに努めた。また昨年度の感想を踏まえ、中国の古典を画像、テレビドラマ、絵本などを交えて紹介することで、身近に感じてもらえるよう工夫した。	
2 その他の事項 2020年4月～ 日本中国学会広報委員会幹事	
3 次年度以降の計画・抱負	
【研究】 科研費「短篇白話小説『拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』の編纂過程についての研究」(JSPS20K12948)について、一年間の延長が認められた。今年度は『拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』が基づいた書籍との関係を個別に詳しく検討し、論考としてまとめると同時に、新たな研究テーマを模索していきたい。	
【教育】 中国語Ⅰ～Ⅴについて2022年度より一部教科書の変更を行う。留学制度等を鑑みて、今後の教科書や進捗について検討を続けていきたい。	

中国文化論・中国古典研究・中国語文献講読Ⅰ・同Ⅱについても授業内容の大幅な変更を予定している。受講者の好奇心を刺激する授業構成に努めたい。